

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	有限会社アマランス		
事業所名	グループホームあまらんす2号館 1F希		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0192500064-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

赤井川の四季折々の美しい風景と恵まれた環境の中で暮らし、地域の方々顔見知りとなり、交流を深めて共に支え合える関係になりました。村の行事のひな祭り交流会に参加したり、高齢者交流会、敬老会、文化際には、利用者様の作った作品を出品させて頂くなど、積極的に交流活動しております。また、あまらんす夏祭りには、ご近所皆様をお招きしたり、村の関係者にもお越し頂き、あまらんすでの介護支援の様子や、利用者様もがんばっている姿を見て頂くことで地域密着型の介護施設として認めて頂けますように努力しています。また、農業が中心の村ですので地場産業で採れたての新鮮な食材を使った料理を楽しんで頂く事で、地産地消を心掛け、村民の皆様と、共に支え合う関係づくりを進めています。そして、「日本で最も美しい村」の一つでもある赤井川村の自然環境を守っていくためにも、道路清掃や川の掃除にも参加させて頂くなど、今後、更に地域の方々との協力関係を大切にしながら、より良い施設にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあまらんす2号館」は、四季の移り変わりが身近に感じることができる、自然豊かな赤井川村の高台に立地している。広い敷地内には、畑やブルーベリーなどの木があり、季節に応じた野菜や果実を利用者自身が収穫を楽しみながらゆったり過ごせる環境になっている。赤井川健康祭りやひな祭り交流会など、地域の行事への参加を勧められる機会も多くなって来ている。村の高齢者交流会や事業所の夏祭りでは、保育園児の歌や踊りを見学したり、地域の子供達と触れ合う機会がある。事業所の夏祭りに村長が参加するなど、行政との関係も構築されている。管理者と介護計画作成担当者は、毎月の勉強会や外部研修などを活用しながら職員教育を行い、資質の向上を目指して取り組んでいる。受診の機会を利用して個別の買い物や懐かしい場所を見学するなど、各利用者の立場に立った支援を基本的に全職員で家庭的な温かなケアに取り組んでいる。かかりつけ医も継続して支援することで、主治医との連携も深められている。入浴も、ゆっくり入浴してもらえるように、休みの日を無くしていつでも入れるように変更している。管理者や職員同士のコミュニケーションを深めながら、「おたがいさま」という理念に沿って、全職員で相手の身になって考えながらケアや運営に前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士で話し合い作り上げた理念を事務所やリビング、休憩室に掲示し、常に意識しながら理念の共有をはかり、日々の業務に役立てています。	法人共通の「おたがいさま」という理念の下に、利用者や家族、地域の方々など、常に相手の立場になって考える事を基本に日々理念の実践に向けて取り組んでいる。ミーティング時に唱和して、全職員で再確認する機会もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村内のお祭りの前日の準備や、神社の掃除の手伝いをしたり、また文化祭には利用者の方が制作した作品を出品させて頂いたり、毎年行っています「あまらんす夏祭り」などに、沢山の方が参加して下さり地域の方と交流を深めています。	村の健康祭り「歩こう会」やひな祭り交流会など、年間を通して行事に参加する機会が増えている。中学校の文化祭見学にも出かけている。事業所の夏祭りには、屋台の手伝いや三味線演奏など、多くのボランティアが訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多種多様の症状がある、認知症の方と関わり方を村の方との交流の中で、触れ合う様子を見て頂き理解してもらえよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、ホームの近況報告や、避難訓練の注意事項等についてもご意見を頂き、取り入れさせて頂いています。また、デイサービスへの参加なども勧められ参加させて頂いています。参加させて頂けることで、外出の機会を増やしていきたいと思えます。	法人事業所合同で開催し、事業所からの報告を中心に参加者との質疑応答が行われている。社会福祉協議会職員より、必要に応じて作業療法士を紹介できることや、役場職員から村の災害マニュアルの見直しなどについて報告を受けている。家族の参加は、高齢化などで難しくなっている。	利用開始時に運営推進会議への参加を依頼すると共に、テーマを記載した会議案内を全家族に送付して、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭りの際には、祭りの趣旨に賛同して頂き、ボランティアなどの協力を得ています。また、祭りの際に使用する備品に関しましても、行政からの協力を得て借り受け進行出来ました。	事業所の夏祭りに村長が出席している。赤井川村原子力防災訓練には、職員と一緒に利用者も参加している。管理者は、自立支援の申請や各種書類の手続きなどで役場を訪問したり、日頃から協力関係を築いて連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行っていませんが、身体拘束の禁止(11項目)を、事業所内の数か所に掲示しています。また、内部研修時スタッフに読み上げてもらいながら、意識向上に活かしています。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した、身体拘束マニュアルを整備している。禁止行為11項目を職員の目につく所に掲示し、日頃から意識化を図っている。薬の拘束について職員間で話し合う機会もあった。管理者は、制止する言葉など気になる言葉かけがあればその都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ということについて、スタッフがいつも問題意識を持ち、ミーティングで虐待に繋がるであろう不適切なケアが、日ごろ自分達の、介護の中にあるかどうか、スタッフ同士注意を払いながら、虐待防止に努めている。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する方の入居がないため、していません。今後当施設でも必要になる場合があると思いますので、研修会等に参加し、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読みあげる際詳しく説明し、理解、納得して頂けるよう努めています。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安のないよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子から察知し、スタッフが優しい心を持って、不満な事や要望など引きだすように努めています。その意見を大切に、家族が来訪した際には、その思いなどを報告し、運営に反映させています。	来訪時や電話で日頃の様子を伝えながら、意見や要望を聴き取るようにしている。家族からの意見は、業務日誌や職員の連絡帳に記載している。家族の意向を汲んで、写真を多く取り入れたホーム便りを年4回発行して個別の様子も報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修や毎月行っている、モニタリングやカンファレンス、ミーティングで話し合いスタッフの意見を集約し、反映できるよう努めています。また、年2回個別面談を行い、職員の意見や提案を聞く場を設けています。	毎月、事業所全体のミーティングを開催している。管理者は、日頃から各職員の提案や意見を聴き取り、運営やケアに活かしながら働きやすい職場環境整備に努めている。運営者と各職員が話しをする機会も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績に対して、個人面談の機会を設け、評価を行っています。また、労働時間に関しても、本人の希望に添えるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるような勤務を組んだり、1人でも多くの職員が参加するよう働きかけています。受けてきた研修は、内部研修で発表することにより、他の職員にも広げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加しています。また、グループホーム協議会での、意見交換や事例検討の場に参加し、サービスの質の向上へ繋がるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てのスタッフが理念に沿った介護を心掛け、情報収集をしながら会話する時間を多くし、ご本人が安心して、信頼できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の事で家族への連絡時(電話等)や、家族の施設訪問時に相談や要望などされた場合は、いつも対応できるようにしています。管理者が対応できない時は、職員が代わりに対応できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から病歴などを、伺いながら介護計画書を作成しています。また、その都度、必要としている支援については、随時検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人ひとりの過去より、得意な事を会話から知り、日々に活かせるものは、スタッフが「教えて頂く」立場で一緒に生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでも家族との連絡を密にし、本人にとって良いと思う事を検討しながら、協力していける体制を取っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	村内出身の方ばかりではないため、なじみの場所が遠い方も多いです。家族の方々に協力を得ながら、住み慣れた地域や自宅への帰省など、可能な限り行っています。また、通院の際なども、住み慣れた町を通ったりし、楽しんでもらえるように支援しています。	温泉に出かけたり村の行事に参加して、知人や友人と会話を楽しんでいる。遠方に住んでいた方は、受診の帰りに以前住んでいた景色に似ている場所を通して、一緒に海を見て来ることもある。入居前に役員をしていた所から、感謝状と手紙が届いた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり、会話に賛同したり、趣味が合う利用者様同士が、関わり合うことで信頼関係ができるような支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、今までの関係性を大切にしながら、必要に応じて支援できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプラン作成の際は、本人や家族の要望や困っていることに沿って作成するように努めています。その都度の訴えには、話を聞きながらできる限り本人の希望に添えるよう適宜対応するようにしています。	利用者が遠慮している時は、会話の中で具体的に聞きながら思いや意向を聴き取っている。利用者の現状が分かるように、暮らしの様子などを記載したアセスメントシートを定期的に更新して情報を蓄積していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院より情報を頂いています。また、本人や家族より話しを伺い、フェースシートに記入し、把握できるよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方を介護日誌やバイタル表に記載し、特に重要な変化については連絡ノートを活用して、職員全員が共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を適宜開催しています。本人や家族の希望・困っていること、また、主治医やスタッフの意見も考慮し、現状の把握と課題の解決については、介護日誌や連絡ノートを活用し、職員全員が共有できるよう努めています。モニタリングについては月1回行い、実施状況の把握をしています。	利用者の状況に応じて、計画作成担当者が中心になり3か月～6か月で介護計画を見直している。毎月のミーティングで意見交換を行っているが、職員がモニタリング記録表などを記載するまでには至っていない。日々の記録は、介護計画と連動した記録が十分行われているとは言えない。	介護計画の見直し時に、モニタリング記録表を職員も記入できるような取り組みに期待したい。また、サービス内容に沿って利用者の変化や課題を日々の記録に記載して、介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきについては、介護記録の他にも、スタッフ間の連絡ノートを用い、管理者やケアマネ、スタッフが気づいたことを書き、そのノートを確認することで全員が把握できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観桜会や楓風会など、家族、利用者、スタッフとの交流会に、自社で運営している温泉を利用し、親交を深めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある区会、消防の方々に、日頃より協力、指導頂いています。自社で運営している温泉に、ADLや体調により個別に利用者をお連れしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ今までのかかりつけ医であった病院へ通院できるよう支援しています。遠方で難しい場合には、事業所の協力医とも相談し、継続できるように働きかけています。受診の際は受診表を作成し、バイタルや状況の変化を記入し提示しています。	殆どの利用者が以前からのかかりつけ医を継続しているが、本人や家族の意向で協力医に変更することもある。受診時は、管理者や看護師が同行することが多いため、主治医との連携も深められている。「受診説明記録」と共に「受診記録」用紙を整備して、時系列での記録に取り組み始めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的にご利用者様と関わり、相談を受けたり、生活リハビリの指導など行っています。また、受診の際主治医の指示を、介護職員に適切な報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、こまめにお見舞いに伺い、元気になれるよう声を掛けたり、状況の把握を行っています。また家族や医師、看護師等とも連絡を取りながら、早期退院に向けて働きかけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化した利用者の家族には、密に連絡を取り合い、面会時は日常生活の様子をより具体的に説明していきたいです。状況が大きく変化した利用者に関しては、家族と話し合いの場を設け、必要に応じた同意書を交わっています。	「看取りの体制と実施方針」書類を作成して、利用開始時に具体的な支援内容や看取り介護の実施などについて説明している。医療行為が必要になった場合や嚥下が困難になった時は、事業所での対応が難しくなる旨を家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、対応できるよう心がけています。また、消防の協力を得ながら、救急救命の講習を受けたりして、緊急時の対応ができるよう心がけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の際には、ご近所の方の協力をお願いしています。また、消防立ち会いのもと、訓練終了後、安全に避難が行えるよう助言などを頂いています。通報訓練についても、いろいろ検討しながら、職員の意識向上につなげられるよう努めています。	年1回消防署の協力の下に、法人事業所合同で夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。また、事業所独自で夜間想定での避難訓練も行っている。災害備蓄品を整備し、職員の救急救命訓練の受講も計画的に進めている。	地震時を想定して、ケア別の事例を挙げながら適切な避難方法について職員間で話し合うよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の権利擁護について、月1回のスタッフミーティングの際に「職員倫理規定」に基づく行動指針の読み合わせをしながら確認をしています。毎月行うことで、新しいスタッフが入っても常に確認し合えるように努め、人格や個人のプライバシー保護を徹底するよう統一しています。	ミーティングで、利用者の人格を尊重した言葉遣いや対応について話し合っている。声かけで気になる時は、管理者や職員間で注意合っている。申し送りや記録を書く時は事務所などで行い、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら身振り手振りや筆談等でコミュニケーションを取り、自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で訴えられない方もありますが、トイレの誘導等も1人ひとりのサイクルに合わせて、その方に合ったタイミングで行うなど、生活の様々な場面において無理強いくことなく、時間をおいて再度声掛けする等の工夫をしながら1人ひとりのペースを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理・美容の方きて頂いています。自分で洋服を選んで着られる方には、毎朝、洋服を選んで頂いています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた野菜や山菜など旬のものを、どのようにして食べたらいかが、利用者と一緒に考えたりしています。テーブルを拭いたり、食器拭きなどもしています。	献立に好みの料理を入れて、日曜日はパン食にしている。誕生日には、炊き込みご飯やチラシ寿司など本人の好きな料理と手作りケーキでお祝いし、利用者に喜ばれている。畑の野菜類を収穫してバーベキューを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取の量を記載、把握し体調に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を行って頂いています。舌ブラシなども、使用してきれいな状態を維持し、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記入、確認しながら声かけ等行い、便座に座って頂き、気持ちよく排泄ができるよう支援を行っています。ウオシュレットなどを利用し、排便を誘導するなどして、できるだけ失禁しないよう取り組んでいます。	日中はトイレでの排泄を行い、3割の人は自力で排泄ができ、布パンツで過ごしている。声かけや移動の介助、排泄の介助など個々の状態に合わせて支援している。間隔を見て、こまめにトイレ誘導することで失禁が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄ノートで排便間隔をチェックしています。毎朝ヨーグルトを食事につけたり、午前の水分補給に牛乳を飲み、便秘予防を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯等、ご本人の意思を尊重し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。	ゆったりと入れるように毎日入浴を行い、午後の時間帯に週2回の入浴を支援している。同性介助の希望も聞いている。全員や個別の希望に沿ってカルデラ温泉に出かけ、温泉浴が楽しめるように継続して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、優しく穏やかな関わりを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一包化をして頂き、氏名や月日印字や色分け等しながら、服用時間や未投薬等がないように注意しながら行っております。服薬介助の際には、声を出して氏名や日にちを確認してくれるスタッフに読み上げをし、ご本人や他のスタッフも確認し合えるように、常に声を出しながら行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の重度化により、自分でできる事が限られていますが、洗濯物をお渡しするとダンスに片づけて下さる方もいます。また、皆が参加できるような行事を数回に分け外出に出かけたり、個々に合った企画をしながら、楽しめるよう支援しています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフや、利用者の家族とも相談しながら、近所の散歩や行事での外出や外食また、本人に欲しい物がある時には、本人をお連れし買い物して頂いてます。お盆のお寺・お墓参り、お正月の帰省等、できる限り希望に添えるよう支援しています。	暖かい時期には広い敷地内を散歩し、畑の野菜類やイチゴ、ブルーベリーの実などを収穫している。車椅子使用の人も一緒に楽しんでいる。季節の花見や牧場のホビーの丘で動物に触れている。好きな料理を選んで外食したり、道の駅にも交代で出かけている。村の雪まつりには数人で参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の希望や力に応じ、行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡や兄弟・知人へのお手紙等、切手やはがきを購入するなどの支援を行っています。また、耳の聞こえが不自由な方には、本人を交えながら代わりに代弁しながら支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、四季折々の壁掛けや置物を置き、季節を感じられるようにしています。また、不快にならないようにトイレなども細めに掃除しています。大きな音をださないように、ゆったりと過ごして頂けるような工夫をしています。	玄関ホールに季節感のある、お洒落な憩いの場所を設けている。居間の大きな窓からは、遠くの景色まで眺めることができる。居間や廊下は品よくスッキリとした飾り付けで、落ち着いた空間になっている。食卓テーブルと別のコーナーにゆったりしたソファを配置し、団欒できるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いソファや椅子を多めに配置し、思い思いに過ごせるよう配慮しています。また、玄関前などにも椅子を置いて、1人になれる空間や居場所を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持参や、居室内での動線を考慮しながら、本人の生活に合ったその方らしい居室作りができるよう支援しています。居室にのれんを設置するなど、プライバシーに配慮しながら、居室内の風通しを良くし温度調整を行っています。居室内には温度・湿度計を設置し、乾燥する時期などにも適宜加湿器やタオルなどを使って湿度を保つように配慮しています。	居室内は造りつけのクローゼットで、物が整頓されている。馴染みの家具類や小物類、窓際に太陽光で動く花のおもちゃなど、好きなものを飾っている。趣味の本やカセットテーププレーヤーを持ち込み、読書や音楽を聞いて楽しめるように暮らしを活かした居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には表札をかけ、わからない方には花や写真など、目印になるものをつけています。また、お手洗いの場所がわかるように、お手洗いの目印を張り付けています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	有限会社アマランス		
事業所名	グループホームあまらんす2号館 2F夢		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

赤井川の四季折々の美しい風景と恵まれた環境の中で暮らし、地域の方々と顔見知りとなり、交流を深めて共に支え合える関係になりました。村の行事のひな祭り交流会に参加したり、高齢者交流会、敬老会、文化祭には、利用者様の作った作品を出品させて頂くなど、積極的に交流活動しております。また、あまらんす夏祭りには、ご近所皆様をお招きしたり、村の関係者にもお越し頂き、あまらんすでの介護支援の様子や、利用者様もがんばっている姿を見て頂くことで地域密着型の介護施設として認めて頂けますように努力しています。また、農業が中心の村ですので地場産業で採れたての新鮮な食材を使った料理を楽しんで頂く事で、地産地消を心掛け、村民の皆様と、共に支え合う関係づくりを進めています。そして、「日本で最も美しい村」の一つでもある赤井川村の自然環境を守っていくためにも、道路清掃や川の掃除にも参加させて頂くなど、今後、更に地域の方々の協力関係を大切にしながら、より良い施設にしていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0192500064-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士で話し合い作り上げた理念を事務所やリビング、休憩室に掲示し、常に意識しながら理念の共有をはかり、日々の業務に役立てています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村内のお祭りの前日の準備や、神社の掃除の手伝いをしたり、また文化祭には利用者の方が制作した作品を出品させて頂いたり、毎年行っています「あまらんす夏祭り」などに、沢山の方が参加して下さり地域の方と交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多種多様の症状がある、認知症の方と関わり方を村の方との交流の中で、触れ合う様子を見て頂き理解してもらえよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、ホームの近況報告や、避難訓練の注意事項等についてもご意見を頂き、取り入れさせて頂いています。また、デイサービスへの参加なども勧められ参加させて頂いています。参加させてもらえることで、外出の機会を増やしていきたいと思えます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭りの際には、祭りの趣旨に賛同して頂き、ボランティアなどの協力を得ています。また、祭りの際に使用する備品に関しまして、行政からの協力を得て借り受け進行出来ました。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行っていませんが、身体拘束の禁止(11項目)を、事業所内の数か所に掲示しています。また、内部研修時スタッフに読み上げてもらいながら、意識向上に活かしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待ということについて、スタッフがいつも問題意識を持ち、ミーティングで虐待に繋がるであろう不適切なケアが、日ごろ自分達の、介護の中にあるかどうか、スタッフ同士注意を払いながら、虐待防止に努めている。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する方の入居がないため、していません。今後当該施設でも必要になる場合があると思いますので、研修会等に参加し、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読みあげる際詳しく説明し、理解、納得して頂けるよう努めています。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安のないよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子から察知し、スタッフが優しい心を持って、不満な事や要望など引きだすように努めています。その意見を大切に、家族が来訪した際には、その思いなどを報告し、運営に反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修や毎月行っている、モニタリングやカンファレンス、ミーティングで話し合いスタッフの意見を集約し、反映できるよう努めています。また、年2回個別面談を行い、職員の意見や提案を聞く場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績に対して、個人面談の機会を設け、評価を行っています。また、労働時間に関しても、本人の希望に添えるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるような勤務を組んだり、1人でも多くの職員が参加するよう働きかけています。受けてきた研修は、内部研修で発表することにより、他の職員にも広げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加しています。また、グループホーム協議会での、意見交換や事例検討の場に参加し、サービスの質の向上へ繋がるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てのスタッフが理念に沿った介護を心掛け、情報収集をしながら会話する時間を多くし、ご本人が安心して、信頼できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の事で家族への連絡時(電話等)や、家族の施設訪問時に相談や要望などされた場合は、いつも対応できるようにしています。管理者が対応できない時は、職員が代わりに対応できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から病歴などを、伺いながら介護計画書を作成しています。また、その都度、必要としている支援については、随時検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人ひとりの過去より、得意な事を会話から知り、日々に活かせるものは、スタッフが「教えて頂く」立場で一緒に生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでも家族との連絡を密にし、本人にとって良いと思う事を検討しながら、協力していける体制を取っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	村内出身の方ばかりではないため、なじみの場所が遠い方も多いです。家族の方々に協力を得ながら、住み慣れた地域や自宅への帰省など、可能な限り行っています。また、通院の際なども、住み慣れた町を通ったりし、楽しんでもらえるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり、会話に賛同したり、趣味が合う利用者様同士が、関わり合うことで信頼関係ができるような支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、今までの関係性を大切にしながら、必要に応じて支援できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプラン作成の際は、本人や家族の要望や困っていることに沿って作成するように努めています。その都度の訴えには、話を聞きながらできる限り本人の希望に添えるよう適宜対応するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院より情報を頂いています。また、本人や家族より話しを伺い、フェースシートに記入し、把握できるよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方を介護日誌やバイタル表に記載し、特に重要な変化については連絡ノートを活用して、職員全員が共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を適宜開催しています。本人や家族の希望・困っていること、また、主治医やスタッフの意見も考慮し、現状の把握と課題の解決については、介護日誌や連絡ノートを活用し、職員全員が共有できるよう努めています。モニタリングについては月1回行い、実施状況の把握をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきについては、介護記録の他にも、スタッフ間の連絡ノートを用い、管理者やケアマネ、スタッフが気づいたことを書き、そのノートを確認することで全員が把握できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観桜会や楓風会など、家族、利用者、スタッフとの交流会に、自社で運営している温泉を利用し、親交を深めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある区会、消防の方々に、日頃より協力、指導頂いています。自社で運営している温泉に、ADLや体調により個別に利用者をお連れしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ今までのかかりつけ医であった病院へ通院できるよう支援しています。遠方で難しい場合には、事業所の協力医とも相談し、継続できるように働きかけています。受診の際は受診表を作成し、バイタルや状況の変化を記入し提示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的に利用者様と関わり、相談を受けたり、生活リハビリの指導など行っています。また、受診の際主治医の指示を、介護職員に適切な報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、こまめにお見舞いに伺い、元気になれるよう声を掛けたり、状況の把握を行っています。また家族や医師、看護師等とも連絡を取りながら、早期退院に向けて働きかけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化した利用者の家族には、密に連絡を取り合い、面会時は日常生活の様子をより具体的に説明していきたいです。状況が大きく変化した利用者に関しては、家族と話し合いの場を設け、必要に応じた同意書を交わしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、対応できるよう心がけています。また、消防の協力を得ながら、救急救命の講習を受けたりして、緊急時の対応ができるよう心がけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の際には、ご近所の方の協力をお願いしています。また、消防立ち会いのもと、訓練終了後、安全に避難が行えるよう助言などを頂いています。通報訓練についても、いろいろ検討しながら、職員の意識向上につなげられるよう努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の権利擁護について、月1回のスタッフミーティングの際に「職員倫理規定」に基づく行動指針の読み合わせをしながら確認をしています。毎月行うことで、新しいスタッフが入っても常に確認し合えるように努め、人格や個人のプライバシー保護を徹底するよう統一しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら身振り手振りや筆談等でコミュニケーションを取り、自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で訴えられない方もありますが、トイレの誘導等も1人ひとりのサイクルに合わせ、その方にとって合ったタイミングで行うなど、生活の様々な場面において無理強ひすることなく、時間をおいて再度声掛けする等の工夫をしながら1人ひとりのペースを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理・美容の方へきて頂いています。自分で洋服を選んで着られる方には、毎朝、洋服を選んで頂いています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた野菜や山菜など旬のものを、どのようにして食べたらおいしいか、利用者と一緒に考えたりしています。テーブルを拭いたり、食器拭きなどもしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取の量を記載、把握し体調に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を行って頂いています。舌ブラシなども、使用してきれいな状態を維持し、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記入、確認しながら声かけ等行い、便座に座って頂き、気持ちよく排泄ができるよう支援を行っています。ウォシュレットなどを利用し、排便を誘導するなどして、できるだけ失禁しないよう取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄ノートで排便間隔をチェックしています。毎朝ヨーグルトを食事につけたり、午前の水分補給に牛乳を飲み、便秘予防を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯等、ご本人の意思を尊重し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、優しく穏やかな関わりを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一包化をして頂き、氏名や月日印字や色分け等をしなが、服用時間や未投薬等がないように注意しながら行っております。服薬介助の際には、声を出して氏名や日にちを確認してくれるスタッフに読み上げをし、ご本人や他のスタッフも確認し合えるように、常に声を出しながら行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の重度化により、自分でできる事が限られていますが、洗濯物をお渡しするとダンスに片づけて下さる方もいます。また、皆が参加できるような行事を数回に分け外出に出かけたり、個々に合った企画をしながら、楽しめるよう支援しています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフや、利用者の家族とも相談しながら、近所の散歩や行事での外出や外食また、本人に欲しい物がある時には、本人をお連れし買い物して頂いてます。お盆のお寺・お墓参り、お正月の帰省等、できる限り希望に添えるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の希望や力に応じ、行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡や兄弟・知人へのお手紙等、切手やはがきを購入するなどの支援を行っています。また、耳の聞こえが不自由な方には、本人を交えながら代わりに代弁しながら支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、四季折々の壁掛けや置物を置き、季節を感じられるようにしています。また、不快にならないようにトイレなども細めに掃除しています。大きな音をださないように、ゆったりと過ごして頂けるような工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いソファや椅子を多めに配置し、思い思いに過ごせるよう配慮しています。また、玄関前などにも椅子を置いて、1人になれる空間や居場所を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持参や、居室内での動線を考慮しながら、本人の生活に合ったその方らしい居室作りができるよう支援しています。居室にのれんを設置するなど、プライバシーに配慮しながら、居室内の風通しを良くし温度調整を行っています。居室内には温度・湿度計を設置し、乾燥する時期などにも適宜加湿器やタオルなどを使って湿度を保つように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には表札をかけ、わからない方には花や写真など、目印になるものをつけています。また、お手洗いの場所がわかるように、お手洗いの目印を張り付けています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あまらんす2号館

作成日：平成 27年 12月 4日

市町村受理日：平成 27年 12月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	「運営推進会議を活かした取り組み」について、開催案内を家族の方に送付したり、電話などで説明しながら参加して頂けるようにしていますが、家族の参加や意見の収集にはつながっていないため、今後の問題点、課題となっている。	ご家族の参加や、参加のできないご家族の意見収集と、「運営推進会議」に少しでも興味を持って頂けるような工夫に取り組んでいく。	新入居時に「運営推進会議」の参加の呼び掛けをする。会議案内の中に、ご家族の意見を書いてもらえるようなスペースを設け、参加できないご家族の意見はもちろん、1人でも多くの意見を頂けるよう取り組んでいく。	6か月
2	26	介護計画とモニタリングが連動した記入になっていないため、記録方法に課題がある。	モニタリングをこまめに行いながら、日々の記録を、介護計画と連動した記録方法で記録できるようにする。	介護計画のサービス内容の項目に番号をふり、各職員がサービスに沿った記録ができるようにする。職員には、日々の記録時や社内研修の中で、記録方法について話し合う機会を設け、介護計画の見直しに活用できるようにします。	6か月
3	35	火災時についての避難訓練については行っていますが、地震・水害などの避難訓練については実施できていない。	職員全員が、災害対策として火災や地震の災害時に安全に利用者が避難できるよう避難方法を身につけるようにする。	地震時に、どのように対応するのが安全なのか、また入浴中に災害が起きたらどうすべきかを話し合いながら今後、火災避難訓練と同様に地震避難訓練なども積み重ね訓練することにより、突然起きても慌てず行動ができるよう取り組んで行く。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。